

危険木診断研修会に参加して

～♪～ 講師の言葉でもっとも印象に残ったことは・・・ ～♪～

1 桜の管理と危険木診断研修会



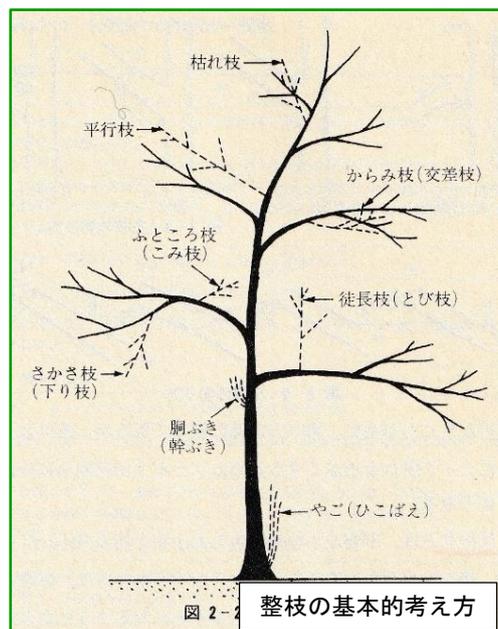
去る2月19日、千葉県緑化推進委員会主催による表題の研修会が、午前・午後にわたって行われました。保全活動に携わったり他者に話したりする立場として、うろ覚えの知識ではいけないと思い、参加することにしました。

午前は「桜の維持・管理」について、座学と野外実習が行われました。枝の適切な剪定方法や、整枝の基本

的な考え方など、学校支援ボランティアで桜の木の管理に関わっている立場としては、うろ覚えだった知識が鮮明に蘇り、普段から感じていた疑問に明確な回答を得ることができて、たいへん参考になりました。

右図は、若い頃読んだ関連図書の中の、整枝の基本的考え方を示したもので、研修の中でも示されていました。

午後の危険木診断研修は、会場施設内の樹林での野外実習が中心で、さしずめ『危険木をテーマとした自然観察会』といった感がありました。



2 ベッコウタケとコフキタケとナラタケ

午前午後(別講師)に共通していた内容は、樹木の腐朽に重大な影響を及ぼすベッコウタケやコフキタケなどに関する話題でした。

ベッコウタケは、関連サイトによれば、サクラやケヤキなど広葉樹の生立木に寄生したり枯死木に腐生する白色腐朽菌で、同菌による病害は「べっこうたけ病」と呼ばれ、風倒の主な原因となるそうです。子実体(キノコ)は樹幹の根際に塊状に群生しますが、発生の時点で、既に根株内部の腐朽がかなり進んでいて危険な状態だと言うことです。

コフキタケはコフキサルノコシカケとも言われ、比較的大型の木材腐朽菌です。

ナラタケ(及びナラタケモドキ)は、食菌で有名な木材腐朽菌として知っていましたが、この場で取り上げられたことは少々意外でした。後日調べてみたら、ナラタケの寄生による病害は「ならたけ病」と呼ばれているそうです。



3 ウメノキゴケについて

公園の現場などでは、樹勢を衰えさせる厄介者とされていることが多いようですが、むしろ何等かの原因で成長（樹皮の変化）が止まってしまった樹木に着生するようです。「自然保護No.608」（2025年11・12月号）には、「（地衣類は）動かずに安定したものであれば2年ぐらいで定着が始まり・・・」とあります。

配布資料には「樹皮の呼吸を妨げる」とありましたが、講師の話では、人（樹木医さん？）によって捉え方が違うようでした。



4 もっとも印象に残ったこと

講師の話の中で、「枯れ木（枝）も生態系の一部」、そして「危険木対策として、伐ってしまうばかりが方法ではない（危険箇所を立ち入り禁止にするなど）」との言葉が、とても印象的でした。

筆者は、里山活動、公園内の里山植物保護、学校の植栽管理などに関わっています。これらの異なる特性のフィールドを考えると、危険木対策や方法が一律でないことは容易に理解できるでしょう。

生物多様性や環境教育を重視するフィールドでは、まさに枯れ木（枝）も生態系の一部であることは言うまでもありません。全てが生き物たちの生息環境であり環境教育の材料です。

公園など様々な人々が訪れるフィールドでは、来園者の安全を最優先しなければなりません。従って広場や歩道沿いでは、危険要素を除去することが求められます。しかし、同じ公園内でも、広場や歩道から離れた樹林内などではどうでしょう。このことは立場や考え方で違いが出てくるでしょう。

里山整備でも似ているかも知れません。関係者が比較的多く行き来する箇所では、安全を優先する必要があります。しかしそうでない箇所であれば、何がナンでも除去してしまう必要はありません。

それでは、学校現場ではどうでしょう。最優先されるべきことは、子どもたちの安全と安心です。しかしここでさえ、ビオトープのように環境学習を目的とする空間では、方法は少々異なってきます。経済林では言わずもがなです。

5 目標林型の考え方

多くの方がご存じと思いますが、里山整備などでよく言われるのが『目標林型』の考え方です。目的によって、森の整備の方向性、目標とする姿や優先するものを明確にして、整備方法を検討します。前述した講師の言葉は、図らずも(?)、このことと同じ理念を示していたように思います。

里山や公園、学校などで活動している筆者にとって、漠然と思い抱いていた共通のイメージが、改めて一つの理念となって明確になった思いがしています。

下の写真は、昨春の某学校現場、記念樹のシダレザクラ、「先が枯れているので伐りましょう」と筆者が提案したところ、教頭先生が「何か穴があります」。よく見たらコゲラの巣穴でした。そして親鳥らしき姿も。もちろん、当面は子どもたちの危険性も考えられないので伐らないことにしました。後日、教頭先生が根元付近に、コゲラについての小さな説明看板を設置しました。



(記：茂原市 望月力智)

ウソばかり

会員の広場 (2026年3月)

ウソはピンクのマフラーを首に巻いたようなきれいな鳥でバードウォッチングでは大人気です。県内では昨年末から目撃情報が多く今年はウソの当たり年の様ですから期待が持てます。ウソは何を食べているのか興味があるので、鳥仲間に情報提供をお願いしました。提供された情報と私自身が今までに見たものを列記すると以下の通りです。桜(蕾)カエデ類、カツラ、クマシデ、ウツギ、タマアジサイ、スギ、カナムグラ、スイカズラ、ムラサキシキブ、ナンテン、野菊類、アオチツラフジ等々 意外なものを餌にしていますが、恐らくこの10倍以上の植物を利用しているでしょう。 佐倉市 坂本 文雄



桜の花芽(蕾)



ウツギの種



イロハモミジの実



地面に落ちたスギの種



アオチツラフジの実



カナムグラの種

サクラはまだかいな

4月にサクラを見る会を催すという企画に参加するつもりで、松戸市内を下見した。歩く道筋のマップを作って仲間数人で歩いた。年相応に歩きはゆっくりと、たまに腰を下ろす場を設けるという約束事で歩き始めた。川沿いは「カワツザクラが満開。花びらの色が濃い、それに引き換えソメイヨシノは随分薄い」との声が聞こえた。「サクラは何種類あるのか?」、「ソメイヨシノのほかにもどんな種類があるのか?」と聞かれた。それなりに答えたが、ここで専門的な話をして、その場は馴染まないだろうなと思って、その場をやり過ごした。植物ネタを披露するのも良いが、相手によってだという判断をした。

先日、「名前が覚えられなくて!」と言う自然観察指導員に成りたての方とご一緒しました。咄嗟に「覚えなくてもいいんですよ」と答えたものの、「優しくないな」と思われたかと思うと返事としてはあまりよくなかったと反省した。

十年以上前、指導員の資格取得講習会に参加して、専門的な事項の話聞くにつけ「へえーっ!」「そうなんだ」を連発していたのを思い出した。

講習では、講師役からは「覚えなくていいです」とは言われなかったが、「これ何でしょう?」と質問すると、「さあ一何でしょうね?」と返されて、「ご自分でどうぞ調べてください」と言わんばかりだったのを思い出した。ほかの講師に質問しても判で押したように同じ答えが返ってきた。

人から聞いたものは基本自分の身にならないという基本的な姿勢が講習会を貫いていたのが印象的で今でも記憶に残っている。

それ以来、観察会に参加して写真を撮り、図鑑と首っ引きになって植物名、昆虫名、鳥の名前、撮影年月日を付して、パソコンのフォルダに写真を貼り付けて、休日ごとにコレクションが溜まるのを喜んでいたことを思い出しました。

だから、「名前が覚えられなくて」と質問された方に、自分はこうだったので、「観察会を積み重ねていくと記憶に残り、名前の特典よりも生態的なことが気にかかるようになってきますよ」と伝えてあげたいと思いました。

サクラに限らず、自然観察の仲間話を聞いていると、とてもわかりやすく、そのたびに植物の世界が広がっているのを感じます。「なるほど、この人はこのあたりが詳しいのか」と感心することばかりです。

(松戸市 藤田 隆)



ソメイヨシノ



カワツザクラ